

首里城の復元と課題



沖縄県立博物館・美術館

館長 田名 真之

2019年10月31日未明、首里城火災が発生、正殿を始め主要な建物が全焼した。首里城の燃え落ちる様子はリアルタイムで国内外、世界へと配信された。県民のショックは大きく、首里城は県民にとって沖縄の象徴としてかけがえのない存在となっていたのである。高校生らは再建のため街頭での募金活動を始め、国内外からも多くの寄附が寄せられた。

政府、沖縄県ともに首里城復元に向けての動きは早かった。政府は2019年11月には政府の責任での再建を明言。2020年3月には2026年までの復元をめざす、などとする工程表を決定した。沖縄県は11月に特別チームを発足させ、2020年3月には「首里城復興基本方針」をまとめた。国、県は工程表、方針に基づき事業を進めている。

首里城の歴史を紐解くと、15世紀初頭に尚巴志により琉球国の王城として成立した。その後、琉球の歴史の主要な舞台となってきた。中国皇帝の使者を20数度にわたって迎え、1609年の島津進入では島津軍に占拠され、王国の宝物が数日かけて運び出された。1853年には、ペリー提督一行の強行訪問があり、北殿で宴が催され、1879年の琉球処分では、琉球藩の廃止が言い渡され、王国の対外関係文書、行政文書などが接収された。

この間、首里城は火災による再建と解体修理を経験している。記録に残る火災は1453年、1660年、1709年の3度であるが、建物の基礎の基壇は7列あって、7度の建て替えのあったことが分かる。解体修理は1728年、1768年、1811年、1846年の4度の記録があり、木造建築のため、一定期間での解体修理を要した事が分かる。

沖縄県設置後は熊本鎮台分遣隊が駐屯した。1909年に首里区に払い下げられたが、23年には、老朽化のため取り壊しが決まった。この危機を救ったのが、沖縄文化を研究していた鎌倉芳太郎や伊東忠太で、彼等の尽力で、国指定重要文化財となり、沖縄神社拜殿とすることで、国により解体修理が行われ1933年に竣工した。この昭和の首里城は1945年5月の米国軍の爆撃で破壊された。第32軍沖縄守備隊の司令部壕が地下に張り巡らされていたことが、爆撃の一因ともされている。

平成の復元は、1992年の沖縄の日本復帰20年記念事業として政府により取り組まれた。1973年に首里城跡に建設されていた琉球大学の移転が決まると、首里城復元が現実となった。1985年に復元が決まり、89年着工、復帰20年の1992年に竣工となった。復元の際には、昭和の解体修理の際の関係書類、王国時代の1768年の正殿の詳細な絵図資料、1846年の絵図資料、普請日記、明治期の古図面、古写真などが根拠資料となった。

今回の復元は「平成の復元の踏襲」を基本としながらも、防火、防災対策が最優先課題とされた。正殿へのスプリンクラーの設置、防火水槽の増設、連結送水管の設置などである。

また平成の復元は、現地を更地にして工事が進められたが、今回は火災を免れた建物もあり、被災後の残存物もある中での工事となる。さらに復元過程を公開するとの方針に沿って来園者の見学スペースの確保も要求されている。

他にも建築用材の樹種や屋根瓦の文様の決定、石彫、木彫の職人の確保、県内の人材養成等々多くの検討事項があり、さらに新資料の調査研究、既存資料の見直しなど、新たな知見の指摘もあり、そうした成果を復元にどう取り込むかも検討課題となっている。

《講師略歴》

だ な まさゆき
田名 真之

沖縄県立博物館・美術館館長

【学歴・職歴】

- 1950年 沖縄県那覇市生まれ
1973年 神戸大学文学部史学科東洋史専攻卒業
1973年 7月 那覇市勤務（市民文化部歴史資料室室長）
2005年 4月 沖縄県立芸術大学教授
2006年10月 沖縄国際大学総合文化学部教授
（2013年～2016年 沖縄国際大学南島文化研究所所長）
2016年 4月 沖縄県立博物館・美術館館長 就任（現在に到る）

【主要著書及論文】

- 『沖縄県の歴史』第2版 （共著 山川出版社 2010年）
『大学的 沖縄ガイド こだわりの歩き方』 （共著 昭和堂 2016年）
「近世琉球の位置づけ－日中の眼差しと琉球の自己認識－」
（『歴史学研究』949号 青木書店 2016年）
「『歴代宝案』の編集と琉球家譜」
（第12回琉球・中国交渉史に関するシンポジウム論文集 2020年）
「風水師としての久米村の人物」 （久米国鼎会シンポジウム報告集 2020年）
時評「首里城火災について」 （『歴史学研究』1001号 2020年）

【主要な委員活動】

- （沖縄総合事務局） 首里城復元に向けた技術検討委員会委員
（沖縄県） 首里城復興基本計画に関する有識者懇談会
文化財保護審議委員、沖縄県史編集委員会委員
歴代宝案編集委員会委員、空手振興ビジョン策定委員会委員
（那覇市） 琉球王尚家伝来品修理等審議会委員